

『日本文化原論 永続思想 主体性学』

1) 思想の特徴

1-1 根源的欲求

一面的な心象や勢いのような者に流され、確かな根拠を持たぬまま歪んだ精神性を表すような態度が出現する。物質依存性の強まる活動習慣による人間の根源性と根幹性の悪化した姿と解される。「あっちの方が強そうだから」や「あっちの方が勢いがあるから」という面をもって安直に同調を進め長い方に巻かれ生存を求める性格が強まる事への歪性の感覚や感性が起こる。群れで気がでかくなり制御不能な身体性や物質性の活用に陥る精神不良が問題と現れる。人間の健全な活動法則性等という姿を問い、言葉や概念、領域観や世界観、思想等と導出し変わらぬ良質性の形を集約し普遍的不変なる基準を整え時々の環境に直面し良し悪しの評価や未来予測性の想像力が出現し変わらぬ良質の生態と人間性を作り上げる方法の導出と稼働の習慣性を持って実態的な普遍的不変の観念と稼働性を果たし健全な心身と観念の相関の実感を遂げる。「確かな人間の習慣や活動法則」を引き出し多くの人々との間で共有される変わりづらい尺度と揃い対象の選定や観測と評価や予測性における安定した論理や筋道を導出し確かな方法と稼働に回る基準の形成を果たす等という面にいつの時代にも変わりづらい人間の根源的な欲求が出現する。哲学文化といった関心や領域観を生む。

1-2 創造力と有効性

小細工的な発想による点数稼ぎの習慣が進むほどに表面性や体裁性へ過剰な意識が起こり、内性の負に対し外形を繕い外界を誤魔化し欺きながら自存性を求める性質が固まる。妙に単純化された人間美や人間像を観念と備えそれへの適用を図る基準と稼働の規則性が作られる。慢性化した詐欺や盗み症、一方向の要望の強まる略奪性が出現する。「愛国心を持て」等という表現もあまりに強まると各自の精神や感性の形成過程に歪性が増し反作用や負の影響が起こる。しかし、人間や生態に対する何ら見解が乏しく良いと思う形の認識が弱いから、

或いは外界へ示す事が出来ないとなると良い精神性は映りづらい。一定の良いと思う形を纏め内外へ堂々と明示する態度には肯定的な自然の精神性が出現する。体側の現象で表すか、観念的に表すか、示し方の方法や程度には多様な選択肢が起こる。時代環境と問題意識によって何を意図し有効な方法を引き出すか、思想自体の産出性と有効性の観点を持って、限られた資源で良い成果を達する面を含み、健全な精神性と身体性と観念性の相関と習慣が稼働し最良的生の導出が果たされる。

1-3 思想一般の認識

どのような人間像や生態像の形成と適正を引き出すか、あらゆる創造の根源性と力の源泉性となり各種の創造性に反映される。仮面ライダーやウルトラマン等という漫画による世界観の導出もこうした一面に含まれる。常日頃の学校の先生や家庭における両親の言動や職場における上司の姿等という仕草や振る舞い性質から直接的な善悪を感じ取る因果が出現する。報道機関による対象の選定と評価伝達からも意識的か無意識に良し悪しの基準が稼働し広く人々の善悪や美醜観を形成する影響が作られる。外界からの影響に対し自己の主要な関心と創造を遂げる中で自己なりの適正基準と稼働の習慣と反省の規則性を持って各概念や領域観や体系観、世界観や思想の形成を図り基準尺度の形成と自律や自製の制御を有する人格が作られる。各個別的な人間形成の実績と反省と成果を反映させ学術等という形に精査し「人間学」等という基礎基盤科目を整え空間の根本的な基準の形成と継承を求める精神が出現する。各所から適正像を提起し広く多くの人々の検証性を重ね良き基準の導出と集約に及ばせ空間の芯となる性質を引き出す事も健全な精神と創造と解される。哲学文化という変わりづらい基準像と定まり一代に留まらず幾代にも続く良質の根源を存続させ人間と生態の健全と永続の思想等と産出される。

1.自然環境 2.両親や兄弟友人の性格、3.教育者や学校教育の態度、4.職場の上司や会社の性格、5.報道機関のニュース、6.漫画やドラマや映画や音楽、7.各所から人間性や生態像の見解と提起や訴求、8.自己生産性を通し作られる直接的な因果と基準の導出、9.歴史教育等による偉人や罪人等という対象の選択と伝達、10.哲学理論的主体性原理の導出、11.一般性の基礎学術科目の整備、

1-4 当該思想の特徴と認識

当該文化論は各種各側面からの影響や恩恵を多々享受しながら著者の個別歴史的な縁起物制作販売等という日本の慣習と思索の体験を軸に備え作り出される思想の特徴が出現します。家内安全と商売繁盛と健康長寿といった基本祈願と実現への思慮と探求の存続から生み出される「主体性と生態の原理」等という性格を有します。過去の学術の系譜を丹念に辿り哲学者や思想家の探究や成果の系譜を掴み自己なりの理論を引き出し外界へ提起するスタイルとは異なる様に思われます。独自の性格の増す思想に及び、上記の内「8」の色合いが強いように考えます。一般的な学術科目へ高められるように日々探究と創造活動が投じられます。自己の軸足と基軸の習慣による各種基準と原理の導出と稼働を重ねる形にあって精神と身体と観念の有機的相関の人間性と人間像を生む。他の良い点を補完的に組み込み自己の有用な血肉に変換させる入力と変換と産出の規則性において健全な芯を宿す主体性を遂げる。あまりに外界の受動性や一過性の影響が強まらぬ自己形成に適正が出現する。自己の基軸的な習慣と原理の具象的な様式を簡潔に導出する思索が形成される。

1-5 特定観と全体性

「ペーパーレス化」等という概念や現象の観点が出現する。効率の良い作業、資源の有効活用という利点を抱き、それを実際化し促進させる根拠を示し具体的施策を投げ意図や欲求と方法と実現の創造が産まれる。パソコン等というハードの生産性を主要な規則性に有し製品の良い点の認識が整理され内外へ進める供給者が作られる。「紙の使用が減少する」事による負の観点も同時に起こり正負の勘案を持って健全な供給者と生活者の立場を内蔵し真に良質を求める性格が形成される。樹木という資源の放置と自然の生態の好循環を妨げる。又は人間の手足をもって文字を書く事や文字の形成と思考を重ね良く現象を勘案した答えを作る性格を喪失し無思考的な感覚の効用と因果の強まる人間性を生む根本的な性質の変容への危惧が中長期的な観点と現れる。短期的な効用に対し間接的な因果へ視線が広がり大きな対象範囲を浮かべ同時に人間や生態の根源や根幹へ視線が及び中期や長期周期と利益不利益の概念と中身を配し最良的な生の導出を求める精神性が進む。特定事業者の直接的な効用感の認識と共に広く生活者や人間一般や生態系の健全性への問いを併せ特定性と普遍的

不変性の観点を含む静的体系観を構成し自己の良き点と不十分な点の認識が整理され自己の現況認識を生みながら外界との対面と訴求を起こし改良点や課題点を掴み健全な内外性と中長期に及ぶ相関と持続の主体性や領域化を実現する。生の導出は負を招く根源的な感性を土台面に存続させ多様な観点と思考の習慣を宿し良好な精神が稼働する創造に及び長期的な健全性を存続する人間性が形成される。長期性の観点に関心を集中し人間や生態の健全と永続の発想を持って利益や不利益の内容を問い作る哲学文化領域の特徴が産まれる。万人性を対象に人間の精神の良質という根源の見解やそれを表す精神と身体と観念の相関と習慣に映る根幹の良質を問い人間と生態の長期性の認識を整え基礎土台性の適正をもって特定観や全体性の構図を引き出し長らく良好な人間と生態の永続と循環の創造が投じられる。あまりに利己性が強まり特定観の意識が偏り全体性や根源性や根幹性の観点の減退する特定観に陥る傾向則の認識を備え長期的な人間の良質を問い作る習慣や法則が稼働する。

1-6 思想の具象性(動静概念と規則性)

動静の習慣の持続する主体や領域観を備え健全な精神の存続する人間や領域や生態を遂げる静的概念の構成に至る。普遍的な不変性の基準と集約し内外へ明示し健全な土台的な基盤をもって各個性や特定観や自他との尊重や協業や共生の相関が産まれる。真理の探究という純粋な創造の習慣が萎むと歪な特定観を招き根源性と根幹性と全体性の悪化した人間性を生む。普遍的な不変と特定性を合わせ持つ人間性において健全な改善意欲の出現する制御が図られる。物質性に妙に依存した生産性に及び力づくで外界に従わせ自存を強め根源や根幹の不良に陥らぬ健康な精神に不動性を求め人間と自然観と社会性と生態を遂げる長期性に価値の認識が起こる。単純ロボット化した人間に陥るほどに短変数と偏狭性の規格均一と量の増大を求め自存を強め他存を減退させる。「質を問い量の適正をもって良質」という算式と産出に及び健全な人間性が続く。長期的利益概念と構成される。動静概念と規則性という主体性原理の稼働により歪性の増進を予防し健全な心身と観念の相関と習慣の生態軌道が産まれる。

静的	静的概念体系 根源性と根幹性、産出性（特定観と全体性） 及び習慣と規則性、
動的 動態性 概念形成、 観測評価予測性、	動静 方法の導出と実施と検証、改善と持続性、

1-7 日本文化原論の構成

5 部構成の内、「1 部(一編から三編)」として最終的な集約性の理論が形づくられます。改善と導出を重ね良い形を求め作る過程と結果の習慣をもって表現に示されます。